

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第66期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	築地魚市場株式会社
【英訳名】	TSUKIJI UOICHIBA COMPANY, LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 猛
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3541局6130番
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 大竹 利夫
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3541局6130番
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 大竹 利夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第3四半期連結 累計期間	第66期 第3四半期連結 累計期間	第65期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成25年 4月1日 至平成25年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(百万円)	59,367	62,355	76,724
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	1,581	336	2,268
四半期純利益又は四半期(当期)純 損失( )(百万円)	3,137	451	3,895
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,290	519	2,835
純資産額(百万円)	4,167	4,142	3,622
総資産額(百万円)	16,029	14,301	14,607
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり四半期(当期)純損失金額 ( )(円)	139.77	20.11	173.54
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	26.00	28.96	24.80

回次	第65期 第3四半期連結 会計期間	第66期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日	自平成25年 10月1日 至平成25年 12月31日
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり四半期純損失金額( )(円)	37.04	8.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当社は平成25年4月1日に連結子会社である八王子魚市場株式会社を吸収合併し、連結子会社である東市フレッシュ(株)は平成25年9月6日に清算終了したため、それぞれ連結の範囲から除外しております。

主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

### <水産物卸売業>

第2四半期連結会計期間より、株式を追加取得したことにより新たに持分法適用関連会社が1社増加しております。

この結果、平成25年12月31日現在では、当社グループは、当社、子会社6社（内連結子会社2社）及び関連会社1社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間における、わが国経済は、政権交代後のアベノミクス、日銀による異次元緩和を背景に、円安、株高が同時進行し、実体経済にも徐々に明るさが見え始めてはいますが、一方で米国経済の財務金融政策などの不確定要素や、消費増税に伴う消費減退も懸念され、未だ不透明感の拭えない状況にあります。

当社が対面する水産卸売業界は、水産物市況は総じて好転したものの、国内漁業生産の減少や消費者の食文化の変化（魚離れ）、市場経由率の低下等、対応の難しい業界環境は継続しています。

このような状況のもと、当社グループの主要セグメントである水産物卸売業において、取扱数量が前年比0.5%、単価が前年比5.8%、それぞれ増加したことにより、連結売上高は623億55百万円（前年同期売上高593億67百万円）と増収となり、冷凍魚関係の収益も回復し、さらにマグロの取扱利益増加並びに経費削減効果もあって、営業利益は3億36百万円（前年同期営業損失15億44百万円）、経常利益は3億37百万円（前年同期経常損失15億81百万円）、四半期純利益は4億51百万円（前年同期四半期純損失31億37百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

水産物卸売業は、売上高は617億98百万円（前年同期は587億76百万円）、セグメント利益は1億86百万円（前年同期は16億82百万円のセグメント損失）となりました。冷蔵倉庫業は、売上高は3億29百万円（前年同期は3億64百万円）、セグメント利益は20百万円（前年同期は21百万円のセグメント利益）となりました。不動産賃貸業は、売上高は2億27百万円（前年同期は2億26百万円）、セグメント利益は1億29百万円（前年同期は1億16百万円のセグメント利益）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は143億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億5百万円減少いたしました。流動資産は97億23万円となり、2億86百万円減少いたしました。これは年末商戦により売掛金が増加しましたが、借入金の返済等により現金及び預金が増加したことによるものです。固定資産は45億77百万円となり、19百万円減少いたしました。投資有価証券の時価上昇により投資その他の資産が増加しましたが、減損損失計上に伴い有形固定資産が減少しました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は101億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億24百万円減少いたしました。流動負債は83億円となり、9億36百万円減少いたしました。これは主に短期借入金の返済によるものです。固定負債は18億58百万円となり、1億11百万円増加いたしました。これは主に長期借入金の増加によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は41億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ、5億19百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益による利益剰余金の増加によるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の24.80%から28.96%となりました。

## (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。前連結会計年度に策定した2ヶ年計画『東市Action-Plan』（以下、「A-Plan」といいます。）に基づき、人件費を中心とした経費削減と、目標管理・リスクマネジメントの徹底により本業である水産物卸売業の収益力を回復させ、「A-Plan」の計数目標の完遂を目指しております。

なお当社は、株式の大規模取得行為への対応策（事前警告型買収防衛策）を継続して実施しております。その具体的内容は下記のとおりであります。

当社は、平成19年2月6日開催の取締役会において、当社株式の大規模買付行為への対応策を導入し、平成19年6月28日開催並びに平成22年6月29日開催の定時株主総会において株主の皆様のご承認をいただき継続しております。

当社では、その後も社会・経済情勢の変化、買収防衛策をめぐる諸々の動向及び様々な議論の進展を踏まえ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるための取組みのひとつとして、継続の是非も含め、その在り方について引き続き検討してまいりました。その結果、当社株式に対して大規模な買付行為等が行われた場合に、株主の皆様が適切な判断をするために、必要な情報や時間を確保し、買付者等との交渉等が一定の合理的なルールに従って行われることが、企業価値ひいては株主共同の利益に合致すると考え、大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定するとともに、平成25年6月27日開催の第65回定時株主総会において、一部を変更した「当社株式の大規模買付行為に関する対応策」（以下、変更後の対応策を「本プラン」といいます。）として継続することについて承認を得ております。

本プランは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（以下「大規模買付行為」といいます。）を実施しようとする買付者には、必要情報を事前に取締役会に提出していただきます。そして取締役会は、大規模買付行為を評価・検討し、必要に応じて当該買付者との交渉等を行い、場合によっては取締役会による代替案を提案します。取締役会は対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対し発動の是非について諮問し、独立委員会は必要に応じて外部専門家等の助言を得るなどして、当社の企業価値ひいては株主共同の利益向上の観点から大規模買付行為について慎重に検討し、対抗措置の発動の可否について勧告を行います。当該買付者が本プランの手続きを遵守しない場合や、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を侵害する買付であると独立委員会が判断した場合は、対抗措置の発動（当該買付者等による権利行使は認められないとの行使条件を付した新株予約権の無償割当ての実施等）を取締役に勧告し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保いたします。また、対抗措置を発動するに際し、独立委員会が発動について株主総会の開催を要請する場合には、株主の皆様が発動の可否を判断いただくための株主検討期間を設けたうえで、株主総会を開催し、発動の可否を決議いたします。

## (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,475,208	22,475,208	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	22,475,208	22,475,208	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

なお、提出会社は事前警告型の買収防衛策を導入いたしております。

内容については、「第2 事業の状況」の「3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」に記載しております。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	22,475,208	-	2,037	-	977

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 29,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 22,358,000	22,358	-
単元未満株式	普通株式 88,208	-	-
発行済株式総数	22,475,208	-	-
総株主の議決権	-	22,358	-

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
築地魚市場株	東京都中央区築地5-2-1	29,000	-	29,000	0.13

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,751	962
受取手形及び売掛金	4,189	5,595
前渡金	347	119
有価証券	45	45
商品及び製品	2,290	2,504
原材料及び貯蔵品	9	9
その他	536	654
貸倒引当金	159	168
流動資産合計	10,009	9,723
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,908	1,794
その他(純額)	1,065	997
有形固定資産合計	2,973	2,791
無形固定資産	81	90
投資その他の資産		
投資有価証券	1,272	1,337
その他	333	422
貸倒引当金	63	64
投資その他の資産合計	1,542	1,695
固定資産合計	4,597	4,577
資産合計	14,607	14,301
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,330	3,908
短期借入金	6,299	3,853
未払法人税等	24	10
賞与引当金	71	30
その他	512	498
流動負債合計	9,237	8,300
固定負債		
長期借入金	463	684
長期未払金	23	3
繰延税金負債	96	95
退職給付引当金	562	474
その他	600	599
固定負債合計	1,746	1,858
負債合計	10,984	10,159

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,037	2,037
資本剰余金	1,309	983
利益剰余金	39	737
自己株式	5	5
株主資本合計	3,301	3,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	303	371
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	18	18
その他の包括利益累計額合計	321	389
純資産合計	3,622	4,142
負債純資産合計	14,607	14,301

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	59,367	62,355
売上原価	57,937	59,396
売上総利益	1,429	2,958
販売費及び一般管理費	2,974	2,622
営業利益又は営業損失( )	1,544	336
営業外収益		
受取利息	9	22
受取配当金	49	25
その他	35	20
営業外収益合計	94	68
営業外費用		
支払利息	82	48
有価証券運用損	27	-
その他	21	18
営業外費用合計	131	67
経常利益又は経常損失( )	1,581	337
特別利益		
投資有価証券売却益	109	-
補助金収入	36	-
損害賠償金	-	117
クレーム求償金	-	108
特別利益合計	146	226
特別損失		
投資有価証券評価損	3	-
投資有価証券売却損	1,498	-
固定資産圧縮損	34	-
減損損失	59	103
事業整理損	80	-
特別損失合計	1,677	103
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	3,113	459
法人税等	24	8
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	3,137	451
四半期純利益又は四半期純損失( )	3,137	451

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	3,137	451
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	842	68
繰延ヘッジ損益	3	0
その他の包括利益合計	846	67
四半期包括利益	2,290	519
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,290	519
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1 四半期連結会計期間より、当社は平成25年4月1日に、連結子会社である八王子魚市場株式会社を吸収合併したため、連結の範囲から除外しております。

第2 四半期連結会計期間より、連結子会社である東市フレッシュ株式会社は平成25年9月6日に清算終了したため連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第2 四半期連結会計期間より、株式会社日本マリンの株式を追加取得したことにより持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

銀行借入保証

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3 四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
銀行借入保証		
東市築地水産貿易(上海)有限公司	30百万円	34百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3 四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	139百万円	128百万円

(株主資本等関係)

前第3 四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	67	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 株主資本金額の著しい変動

当第3 四半期連結累計期間において、31億37百万円の四半期純損失を計上したため、当第3 四半期連結会計期間末において株主資本が40億59百万円となりました。

当第3 四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産物卸売業	冷蔵倉庫業	不動産賃貸業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	58,776	364	226	59,367	-	59,367
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	23	0	23	(23)	-
計	58,776	388	226	59,391	(23)	59,367
セグメント利益又は損失( )	1,682	21	116	1,544	-	1,544

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「水産物卸売業」において、製造設備等の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては59百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産物卸売業	冷蔵倉庫業	不動産賃貸業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	61,798	329	227	62,355	-	62,355
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	22	-	22	(22)	-
計	61,798	352	227	62,378	(22)	62,355
セグメント利益	186	20	129	336	-	336

(注)1.セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「冷蔵倉庫業」において、冷蔵設備等の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては1億3百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	139円77銭	20円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (百万円)	3,137	451
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	3,137	451
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,446	22,445

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

築地魚市場株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 栄司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 久保 英治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている築地魚市場株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、築地魚市場株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。